

阪田知樹さん応援レポート

阪田知樹ピアノ・リサイタル

2016年3月4日(金) ヤマハホール

未来を見据えた新しい響きのホールで

ヤマハ銀座ビルにあるヤマハホール。
ヤマハビルの6F~9Fに設置されており、奥行きよりも高さの特徴としたホール形状と音響による、響きの良さで知られる。
斜め格子状のウッドタイルが敷き詰められた側壁が独特のシックな趣をかたちづくる。なるべく柔らかな音を返すよう、工夫されたものだそう。様々な工夫により、アコースティック楽器に最適で、しかも『ヤマハホールにしかない最上級の響き』を備えるコンサートホールが実現されている。



ヤマハ社ホームページより転載



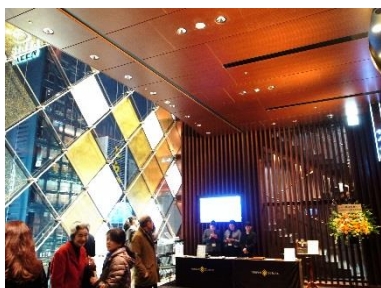
本日は、阪田さんのソロ・リサイタル。
コンサート・フライヤーには、「・・・国際的にも活躍している彼の音楽を存分に堪能できる絶好の機会。さらなる飛躍が期待されている阪田知樹の世界観を研ぎ澄まされた香り高い響きが魅力のヤマハホールでお楽しみください！」との紹介文。

本日のプログラムも難曲揃い。リストのソナタを中心に、最高難度ともいえるゴドフスキ、今年後20年を迎える武満徹等、バラエティに富んだプログラムが予定されている。

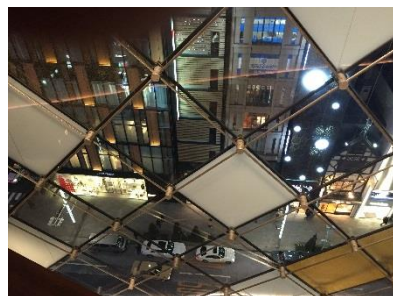
開演前の客席では、プログラムを見て、「うわ、ハードな曲ばかり。しかもメンタルもハード」と、驚きをもって語り合う音大生と思われるグループの姿も。



ヤマハホール外観



開演前のホワイエ



ヤマハホールホワイエから見下ろす

テーマは「人生の闘争」。奏でられる世界観



演奏会が始まる。

1曲目、モーツァルトの幻想曲から。クリアな音色と音のつながりも美しく。続いてシューマンのピアノソナタ第1番。抒情的に、繊細に柔らかく。明晰かつ自在な表現による阪田さんの世界に引き込まれる。

休憩を挟んだ後は武満 徹作品の「閉じた目～瀧口修造の追憶に～」。こちらまた、妖しげに独特の旋律。

4曲目はリストのピアノソナタ。力強さと柔らかさ、迫力満点でありながら滑らかに。先日のテレビ出演の際、「・・彼は手が3本あるかのように弾く」と紹介されていたが、本当に3手、4手による演奏であるかのような大迫力。

最後の曲はJ.シュトラウス2世の「芸術家の生涯による交響的変容」(ゴドフスキー編曲)。テクニク的にも体力的にもこれでもか！といわんばかりの、なんと難しい曲。こちらまた、手が何本もあるかのよう。超絶技巧もふんだんに、客席のみなさんも思わず前のめり。

聴きごたえ十分の演奏が終了し、大きな拍手が鳴りやまずに続く。



ハードなプログラムののち、アンコールにこたえて弾いてくれたのは、なんとリストの「ラ・カンパネラ」。客席もおおーと小さくざわめく。テンポも軽やかに、美しい鐘の音が響きわたった。ふたたび鳴りやまぬ拍手にアンコール2曲目、ラフマニノフ「楽興の時より第2番」。いや、もう聴衆のみなさん、大満足だったことであろう。

阪田さんが「人生の闘争」と銘打った本日のプログラム、難曲を揃えた圧巻の演奏はまさに「闘争」。聴きごたえ十分、たっぷり感あふれる演奏会であった。



阪田さん演奏写真はすべて
©Ayumi Kakamu



ヤマハ社ホームページより転載

偉大な作曲家にインスパイアされる日々

終演後のホワイエでは、CDサイン会。たくさんの方々が列に並ぶ。
「いや～、すごかったですね・・・」
「あんなふうに弾けるなんて・・・」
「大満足です」と称賛の声があちらこちらで。

終演後、インタビューを受ける阪田さんに同席させてもらった；

ー本日のプログラム。メインディッシュがいっぱいのようなすごいプログラムでしたね；

「・・・無秩序に見えるかもしれませんが、筋があります。今回のコンセプトは『人生に対する荒波にどう立ち向かうか』でした」

「たとえば本日の1曲目、モーツァルトの幻想曲は古典派のものとはやや異なり、個性のあるところが一種の挑戦、時代に対するある種の反抗のように感じられ、テーマにそくすと思っ

て選びました」
「2曲目のシューマンのソナタは通常のソナタの構成を敢えて断ち切っているという点で型破りな曲です。斬新というか、自分はこうだという意思を感じます。そしてそこに人生の葛藤や苦しみ、なにかえぐられるような感情表現が感じられます」

「ラストの曲、ゴドフスキは、ワルツ調で原曲は華やかな曲なのですが、編曲によって、ちょっと違う要素、アンニュイな要素が加わり、ニヒルな感じがする曲です。ゴドフスキは自身の人生を『不幸な人生であった』と語っており、コンプレックスが投影されているように感じたので選びました」

ーラストの曲は、めったに演奏されることのない曲ですよ。この曲を目当てに聴きにいらしているマニアの方もいらっしゃいましたね；

「・・・難しい曲とは何かという命題はあるのですが、難しいといわれる曲に挑戦してみたいと選びました」

ーご自身も作曲や編曲をされますね；

ゴドフスキの編曲には創作意欲を感じさせられます。自分を出すというか、とてもインスパイアされます。自分もスタイルを変えて書いてみようかなという気になります。



財団奨学生OB西村さんもご来場
(写真右右下の方です)



「・・・本日のリサイタルに際しては、今年度を締め括るにふさわしいものとなるよう、気を引き締めて取り組みました。

演目は特別な思いのある作品ばかり。ほとんどが初めて舞台上で演奏するものでした。大曲揃いでしたので、準備にも思った以上に気合が入り、時には作品に没入し過ぎてしまい、空回りする時期も訪れました。しかしながら、苦労の末、確かな感触をつかむことが出来、こうして本番を迎えることができました。これらの曲群は今後更に深めていきたいと思っています」

阪田さん素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

<演奏会概要>

◆出演
阪田知樹(ピアノ)

◆プログラム

W.A.モーツァルト／幻想曲 ハ短調
KV396(385f)

R.シューマン／ピアノ・ソナタ 第1番 嬰へ短調
Op.11

武満 徹／閉じた眼 一 瀧口修造の追憶にー
F.リスト／ピアノ・ソナタ 短調 S.178 R.21

J.シュトラウス2世(L.ゴドフスキ編曲)／「芸術家の生涯」による交響的変容

アンコール曲：

F.リスト／ラ・カンパネラ

S.ラフマニノフ／楽興の時より第2番変ホ短調

◆ピアノ

ヤマハコンサートグランドピアノ「CFX」

【コンサート・フライヤー(表)】

YAMAHA  GINZA

珠玉のリサイタル & 室内楽

第14回ヴァン・クライバー国際ピアノコンクール、最年少入賞者、
阪田知樹がヤマハホールコンサートシリーズに初登場！
今回のプログラムは、武満徹の作品を封筒点として「古典派」と「ロマン派」の作品を独特の感性で配置した、オリジナリティ溢れる作品をお届けします。国際的に活躍している彼の音楽を十分に堪能できる絶好の機会。さらなる飛躍が期待されている阪田知樹の音楽観を、皆さまと共有した盛り高い響きが魅力のヤマハホールでお楽しみください！

©Dan Apperloo, Monique The Droom

Concert Series

阪田知樹 ピアノ・リサイタル

阪田知樹(ピアノ)

Program

W.A.モーツァルト/幻想曲 ハ短調 KV396 (385f)
R.シューマン/ピアノ・ソナタ 第1番 嬰へ短調 Op.11
武満 徹/閉じた眼 - 樋口修造の追憶に-
F.リスト/ピアノ・ソナタ ロ短調 S.178 R.21
J.シュトラウス2世(レゴファスキー 編曲)/「芸術家の生涯」による交響的変容

2016/3/4 (金) 19:00開演 (18:30開場) ヤマハホール 〒114-8661 東京都中央区銀座7-4-14

入場料(全席指定) 4,000円 [コード:273-766]

〒114-8661 東京都中央区銀座7-4-14 ヤマハホール チケットぴあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/>
お問い合わせ: ヤマハ銀座ビルインフォメーション 03-3572-3171 (11:00~20:00受付) <http://www.yamaha.co.jp/yamaha/ginza/>

主催/ヤマハ株式会社

 **YAMAHA**
株式会社 ヤマハ

本公演の収益の一部は、公益財団法人日本音楽振興会に寄付され、音楽教育の発展に貢献いたします。また、ヤマハホールは、環境に配慮した施設です。

珠玉のリサイタル & 室内楽

阪田知樹 ピアノ・リサイタル



阪田知樹 Tomoki Sakata (ピアノ)

1993年生まれ。東京藝術大学2年在学中の19歳にて、第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞(46名中)、第61回全日本学生音楽コンクール中学校の部第2位、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校在学中に、2009アジア国際音楽コンクール最優秀賞、第23回ピティナ・ピアノコンペティション特別グランプリ、及び聴衆賞を含む5つの特別賞を受賞。

12年より、名だたる世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められ、イタリアでも研修を積み、14年には、ハノーファー音楽大学に特許音楽入学を果たし、現在、ドイツ在学中。西辻孝人、渡辺健二、アリネ・ヴァルグイ、バルネ・バボラースコグの各氏に師事。音楽理論・作曲を高橋千佳子、永沼元之、松本日出春の各氏に師事。

フランス、スイス、ベルギー、ポーランド、チェコ、オランダ、ロシア、アメリカ、東京、横浜、大隈、名古屋等、国内外各地でリサイタルの他、第20回サナーチェク国際音楽祭、第12回タレスリン音楽祭等、国際音楽祭への出演多数。NHK FM、FM横浜、ロシア国家テレビ、RSH スイス・イタリア語ラジオ放送局、RTS スイス・ロマンド・ラジオナレラジオ局において、朗読録音、及び、放送される。

矢崎洋太郎、梶田茂夫、グラーディオ・M・ヴァーレーヌ、レナード・スラットキン等の講義指導の下、東京シニア・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、チェコ国立交響楽団、フォートワース交響楽団などと共演。11～13年度ヤマハ音楽奨励生、第41回江崎記念財団奨励生。

©2014 Yamaha Music Company, Inc. All Rights Reserved.

ヤマハHP「ピアニストラウンジ」にて阪田知樹のコラムを配信中!

<http://jp.yamaha.com/sp/products/musical-instruments/keyboards/pianist-lounge/>

ヤマハ 阪田知樹



ヤマハホール

〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-14 03-3572-3139 (09:00～18:00) 平(20名)

●交通のご案内

東京メトロ有楽町線/丸の内線/日比谷線「銀座」駅A3出口より徒歩4分
都営地下鉄浅草線「新橋」駅、「有楽町線」駅より徒歩7分
JR線「新橋」駅より徒歩7分

ヤマハホール公演情報メールマガジン配信中! (不定期)

登録はアマゾン・HP3D2、QRコードより可能です。
登録URL: <http://www.yamaha.co.jp/yamahallpage/subscribe/>



ヤマハホール公式 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/yamahahall>



Like



【コンサート・プログラム(表紙)】

YAMAHA  GINZA
ヤマハホール

Concert Series

阪田知樹 ピアノ・リサイタル

2016年3月4日(金) 19:00開演

主催/ヤマハ株式会社

 YAMAHA
ヤマハホール

【コンサート・プログラム(1ページ)】

Program

W.A.モーツァルト／幻想曲 ハ短調 KV396 (385f)
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) / Fantasie C Minor KV396 (385f)

R.シューマン／ピアノ・ソナタ 第1番嬰へ短調 Op.11
Robert Schumann (1810-56) / Piano Sonata No.1 in F-Sharp Minor Op.11
Introduzione: Un poco adagio - Allegro vivace
Aria
Scherzo: Allegrissimo - Intermezzo - Lento
Finale: Allegro un poco maestoso

—休憩—

武満 徹／閉じた眼 - 瀧口修造の追憶に-
Tora Takemitsu (1930-96) / Les yeux clos, In Memory of Shunzo Takiguchi

F.リスト／ピアノ・ソナタ ロ短調 S.178 R.21
Franz Liszt (1811-86) / Piano Sonata in B Minor S.178 R.21

J.シュトラウス2世(L.ゴッファスキー 編曲)／「芸術家の生涯」による交響的変容
Johann Strauss II (1825-99) arr. Leopold Godowsky / Symphonic metamorphosis on "Künstlerleben"

飯田知穂(ピアノ)

Program Note

●W.A.モーツァルト／幻想曲 ハ短調 KV396 (1783)

後継者ツプツルタの大司教と決裂し、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は新たな活動を求めて1781年にウィーンへ移り住む。そして翌年にはコンスタンツェ・ウェーバーと結婚。モーツァルトがバイオリンとピアノのための曲の創作に着手したのもその頃で、1782年8月から9月に作曲を始めた。作品は、音楽コンスタンツェのために書かれたとみられる。ところが作曲は中断され、この作品は完成を見ることはなかった。後の批評、マクシミリアン・シュタープナーがバイオリン・パートを書き、ピアノ独奏曲として補筆完成させる。なお原曲には、タイトルも温度表記も付されていない。モーツァルトは、自ら理解者であったスウェーデン男爵を頼りにされ、そこでバハやヘンデルの楽譜に触れた。その傍にC.P.E.バハの作品にも触れており、強い示唆を受けたことが知られている。この作品の取調前で自由な書法にも、C.P.E.バハの影響が感じられる。

●R.シューマン／ピアノソナタ 第1番 嬰へ短調 Op.11

ロベ르트・シューマン(1810-56)は、ドイツ・ロマン派のなかでも、最もロマン主義的な作曲家と言ってもよいであろう。彼は、E.T.A.ホフマンやジャン・パウルなどのドイツ・ロマン派の文学に深く傾倒し、その世界で想像力あふれる幻想の世界を音楽にも表現しようとした。

1820年代のシューマンの創作の中心は、ピアノ作品であった。彼は、ロマン派の時代の新しいピアノソナタの創作を10歳以上試みているが、その多くは未完に終わった。本日演奏される第1番は1834-35年に作曲される。数多くの引用が見られる点も特徴であり、第1楽章や第2楽章にはシューマン自身の傑作「アンナに寄す」(1829年完成)や、第1楽章の第1主題はクララ・ウィークの作品や自身の《ファンタジー》(未完)の旋律を見ている。そして第2楽章を除いて、《ファンタジー》のセリアーフを主題の冒頭に用いることで作品の統一を図っている。一方、第3楽章の中間部にはオボエーズやホルンのレチタティーヴォのような表現を取り入れ、第4楽章にはシューマンが当時試みていた管弦楽の構想が盛り込むなど、広範な表現を駆使している。

- 第1楽章／ワン・ゴア・ダージョ 嬰へ短調 →アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第2楽章／アリア 長調
- 第3楽章／スケルツォとインテルメッツォ：アレグロ・シモ 嬰へ短調 →レント ニ長調
- 第4楽章／フィナーレ：アレグロ・ワン・ゴ・マエストロ 嬰へ短調

●武満 徹／閉じた眼 - 瀝口修造の道徳に -

20世紀後半の日本を代表する作曲家、武満徹(1930-86)、スタジンスキー・タコプランドをはじめ、世界中の音楽家に絶賛され、国際的な評価を得ている。彼は若い頃から数多くの映画音楽をはじめ、テレビ番組などの映画のための音楽も作曲し、多くの人を魅了した。

《閉じた眼》-瀝口修造の道徳に-は、フランスの画家ルドン(1840-1904)の同名の絵画に由来する。閉じたまぶたの上に浮かぶ残像を表わした作品で、実験工房などでも活動していた美術評論家の瀝口修造(1903-79)を悼み、1979年に作曲された。作品の各部分ごとに3つの音からなる動機が用いられ、それらの動機が繰り返されるたびに、さまざまに増殖してゆく。静寂のなかに入り込められる音の残像が印象的で、神秘的な美しさを醸成している。

●F.リスト／ピアノソナタ 4短調 S.178 R.21

フランツ・リスト(1811-86)はハンガリー王国のライプティンダ(現在のオーストリア)に生まれ、ヨーロッパはもとよりロシアにも演奏旅行を行なうなど、国際的な演奏家として名声を博した。

《ピアノソナタ 4短調》は、1822年から翌年にかけてヴァイマルで書き上げられた。リストが完成させた唯一のピアノソナタであり、《幻想曲》作品17を献呈したR.シューマンへ捧げられた。この作品が発表された当初、意見は大きく二分し、シューマンの妻クララは「ただ目約6ない中音にすぎない」(中略)「それは回っても、彼に作品のお礼を言わない方がいいんじゃない」と日記に書き記している。

このピアノソナタは、大きく分けて3つの部分からなっている。作品については、一楽章形式のソナタ形式と見えるか、あるいは多楽章のソナタとみるかさまざまな解釈がなされている。冒頭の主題がさまざまな変奏をしながら展開してゆくだけでなく、明らかに中間楽章的な類型の部分も組み込まれている。ピアノソナタの歴史は、リストのこの作品によって転機を迎えたと評しても過言ではない。

●J. ショトラウス2世(L.ゴドフスキー 編曲)／「芸術家の生涯」による交響的変容

音楽史上、「ワルツ王」と呼ばれるヨハン・ショトラウス2世(1825-99)は、父ヨハン・ショトラウス1世が確立したウィンナー・ワルツのスタイルを継承し、数多くのワルツを書き上げた。そのほとんどは、ウィーンの舞踏会で自身の導くオーケストラが演奏するために作曲された。1887年初演の《芸術家の生涯 Kammerleben》作品318もそうした作品のひとつである。

このワルツをもとに、レオポルト・ゴドフスキー(1870-1938)は1906年に編曲を手掛けた。ゴドフスキーは《ショパンの練習曲》に基づく《33の練習曲集》などの、高度な演奏技術が求められる作品で知られているが、この編曲でも活かして技巧的な表現が際立っている。冒頭は前奏にあたり、このワルツを導く動機を数回繰り返しながら技巧的な表現を展開し、つづいてワルツの旋律が現れる。「交響的変容」と題されるように、自由奔放なパヴァーゼスが独奏家等に披露される。

【道下京子】

【コンサート・プログラム(裏表紙)】



©Kenji Aoyama/Photo: The Globe

阪田知樹 Tomoki Sakata (ピアノ)

1988年生まれ、東京藝術大学2年在学中の19歳にて、第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞(46位)、第41回全日本学生音楽コンクール中学校の部第2位、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校在学中に、2006アジア国際音楽コンクール最優秀賞、第25回ピナ・ナディアコンペティション特別グランプリ、及び勲章賞を含む1つの特別賞を受賞。

17年より、名だたる世界的ピアニストを輩出し続ける「ユース・国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められ、イタリアでも研鑽を積み、14年には、ハノーファー音楽大学に特別者選入学を果たし、現在、ドイツ留学中。西田寿人、渡辺龍二、アリネ・ヴァルゼイ、パウロ・パドヴァーニの各氏に師事。音楽理論・作曲も高橋千佳子、永塚正之、池本日之巻の各氏に師事。

フランス、スイス、ベルギー、ポーランド、チェコ、オランダ、ロシア、アメリカ、東京、横浜、大阪、名古屋等、国内外各地でリサイタルの他、第29回ヤナーチク国際音楽祭、第14回クレミン音楽祭等、国際音楽祭への出演多数、NHK-FM、FM横浜、ロシア国際テレビ、RSI スイス・イタリア語ラジオ放送局、RTS スイス・ロマンドラジオ放送局において、音楽解説、及び、放送される。

久崎康太郎、坂田俊夫、ヴァグナー・レオ・ヴァーレンツ、レナード・スコットマン等の師匠指揮の下、東京シティアカデミー・モーツァルト管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、チェコ国立交響楽団、フォートワース交響楽団と共演、11〜13年度ヤマハ音楽奨励学生、第43回江崎記念財団奨励学生。



ヤマハホール公演情報
メールマガジン配信中！(不定期)

ご登録はヤマハホールHP又は、QRコードより
お願いします。
<http://www.yamaha.co.jp/yamahoginza/hall/>



ヤマハホール公式

Facebook

公開中！

ヤマハホール公式 Facebookページ <https://www.facebook.com/yamahahall>



公演・チケット発売情報、出演者によるコメントやインタビュー動画の配信、公演直前のリハーサル模様等、ヤマハホール主催公演の情報をお届けいたします。

是非、「いいね！」ボタンをクリックをお願いします。 Like